播州加東郡小野安達龍仙翁親傳

小兒龍子丸

藥料壹貫百銅

此薬を用ひんと欲し人いまづ氏のうぶすなを何ぐんもくぐうくーよりて小兒乃病ハとべてたいどくようおこるとらんくーくがてんーとして薬と用ひ小兒を大人とちがひいろ程あーきくても病の根よといなぐる史根元をろうばこといアあうのをあーく薬を用ゆるくれいもぐ成るのすーあーせのはいまこハらんどや又病もうばーおろべーー依て氏のうぶすなとよりて病のもとを知るの第一なり

本家調合所　大坂備後町四丁目　安達吉右衛門製

西垣文庫
文庫10
6504

文庫10
6504

小兒龍子丸傳來

西理文庫

○のゝ去のりんりうなる子誓らんべまたようこ
やまとの世のうまるれかゝるれ市中の業者と
一般ゝかろんをなるゝ一忘もいれまり
かぎりなるそらごとにあるしまうたゝ見ひ
たゝしゝ見ゝ怪なるゝをあるれ

○播州明石より六里ばかりいゝ小兒とゝ人ゝ安達三右衛門と名乗う。
小兒儲病乃大妙薬なるゝゝ遠國までもよゝきこゝへたる
名聞なり○元来此家の先祖ゝ安達龍仙ゝゝ小兒の醫業
をゝゝく其名海内へきこゝ儲國乃儲主を教育れおられ

龍仙翁ゝ享保年中より十七年ゝあいだ昼夜こゝ元を
くだき其ゝゝ此ゝゝうゝ小兒の方病ゝゝ治ゝる
ゝを妙得ゝる秘方なり。それ故今ゝも播磨ゝは龍仙翁
乃門人多くありて即小兒の名醫多し（先祖の家なり 此方へ出入の人ゝ）
ことなり　又けて此龍子丸ハ龍仙ゝ家乃秘中の秘方なるゝ
他家へ中れゝ吸ゝ門人等へも変ゝてゝゝさゝ秘義
ゝゝゝど奇異乃秘方とむ色ゝく遠鄙の田家ゝ秘ゝおゝん
ゝゝ善く世上乃小兒ゝなゝゝ益あゝめんと毎ゝ龍仙翁
乃神ゝ亟ゝ通りを色もたゝゝ此のゝ書ゝなゝゝ色
此度世ゝ弘むるものなり。誠ゝ小兒儲病ゝ用ひくゝ海世
亟双乃大妙薬なり

小兒諸病總論

○凡小兒の病ひもとを正〜見るに母の胎内をいづる時に胎内にて
ふくそうする臓毒の気ぐくとは胎内のけがれる悪けを生き
落る時ぐく産門をさげひ喉へ入腹の内にのこりて気をたいぐく
とはつまり小兒の身にとりてしたいぐくより外に病とゝなべき
もの也たとへて云ば腹の内にむし生ずるも湿水に臭の生じ
るごとく胎内にて気をそむしを生ずる也清きあるは臭も生
ぜざるごとく〜よく考へ見るべし〜掬みうまれ出産して名もなく
大便黒き色のはめけやうなるものを通じ気を俗に胞囊ともいかに
こゝともつまり光はうまれぬ先に母の胎内にて受るけがれのうまれ

胎を通じるゆえ」胎毒後たくさんに通じたるゆえ母病なくして乳と
なる時は通じ止て麻のしるをまぶるゆえ産後十二時をすぎて乳と成るが
大法なり先ハ産婦のちく十二時さし後ハとゝ出るものゆえその間ちくとえべ
ども児に害なきハ天然の理なりちくをとゝけるあれかけがれる
悪汁をとり出して大病の腫となるゆえきつのけり小児ハ大人と
違ひ〜淫欲飲労心のつもるハ是外にとまるべきものなり」胎毒
なのたまに産後にできるものハ出もたいぐくのごとくに
よく知りたるうへにて産婦や小兒に受る風やひ〜そを見ちがへ
ありて悔るを世の人ハ麻のやまひと心得て麻の薬を用ひく
かんぞうのたいぐくとさしぬゆへいつまぐ用ひてもなを治ぬ
一生病となる故て産風産婦も麻もかやうなるたいぐくのうれこと

又小児に癍あるも陽に理して胎毒の澤なるゆへ乳をのむとても
さしけをしく癍あるこゝを癍に四つ五つとたいどくとなるべし
たいどくさへよくなれば自然と癍は出さるる理なり別る
小児又七才まで大なるなり大抵二歳三歳にもなるべし
大抵さへよく通ずれば癍の出づる者ゆえ若し疫出しうれも
滯らば癍の出ざんと心づいく〻やく薬を用ゆべし
かわどもそ小児の癍のもとゝぶ〻て疫命にたる龍の丸
なれば云わどもひけしき癍にも治せんこの白こと柄ゆえ
なれば薬さへも服の用ゆたいどくの者をたゆゆえなり多くを
りつく小児の百癍をもつたいどくよりおこるとの心こと
よく〻ぶてんを出す〻

吐乳

小児の癍いまく〻ちをあまをとりおちとが為く〻の馨
ちをあまをとりやうに　馨みも見へうり児らくとなるまをとを出癍の乳ざうを
えやく薬用用出し〻ちれもたいどくの為をさして言中よ飛ざい
を猶ち癖塊ぶのがるちあるひまを出さうのかりく服者がそをうをいぶ
たいどくひけ三つよりなるをりゆへ又ちく把さまりのひて石のまををり。ま
くひけ龍ま丸を用出す〻

驚風

ちかうふうれむ〻い小児名者よりく神経いまぶ変らざ神
ゆへ者〻きゆゆ飛を見く把押で為さ〻う。歯きりこと
驚出かゆい月を引つけまな〻とびくにう世癍漆を吐こと死ちるをり
大急なる孤急驚風をちひゆるやうなるを浸きをこうふうとちふゆ〻ん
なときひびくせふれりて天日七日めよ要うてのちれいぞんの癍ちまべ
小児第一なり出癍なり。ひけ龍ま丸此癍又熱あり用ひく知るを〻

小瘡

小児疱やあたま其外身内よりくさのごとくでること。ろうゝ法付薬ぬるべし。薬などよりうちとり付て熱ぬるみを毒を内より入れ膿勝をぬき息せはしくなりて呼吸せずして身内それたるゆゑ病とあらべし。秘めの内より出龍るゝを男ひとりたいどくをもをしあげんれば後はいろくゝ乃症より変じ治しがたし

腸風撮口

此病い腸の筋切るゝ和より水涙のごとくいはゆる風邪へて撮それ撮とり。志きりより唾ごとくくいに撮ひらく法。まゆへ乳のむるのさわぐ出るまとたてをけて男色をし。即効あり○紙一枚乃用ゐるくなるハ死ぬると心得をし

臍突

児生まれて一両月の中より臍へそをきいで。後其を白くなるをそぐさむ病へ切て大切なる症なり。ゆくゆくはづれて出龍るゝを男色をしバ小便を白き抽通じて手妻をとるゆゑ死ゆゑ先をとるべし

胎熱懸癬

此病ハ児うまれいでると其まゝ死ぬる。なれて急く児のくちの中を見る法。のどけひこの不久よハ腮のうくゝ栗つぶ程の物でるくあるとれをゆびをそをぶしやぶ血のごとへ〳〵ぬぐひ去るをし。甚強て出龍るゝを男色

鵞口瘡

此病ハくちの中白くなりて鵞とりハ多のくちの中乃ちうるゝ。是ハ胃中に気ども多くもつて出龍るゝ白濁を男色べし。即効あり

走馬牙瘡

此やまひハくちの中ゝ瘡を生じて血をいたくくちの中つくく歯根ゝ歯齦を白くなりてとぐくぬはれ痛ゝ完石きて孔をるもの多くあり。俗ゝ歯くさるゝ。ゆくゝやくさるもいふ。急なる病へくちの中奥きるゝ。つゞまるゝ心ををけて出龍るゝ男色。薬ぬるべし

癖積

此病ハそこゝ塊ありて、常に腹内に生ずる病ん癥こゝ
やまひなまきるゝ、俗ゝ此病を むしおこりともいふ
かたくひくもつて、此龍子丸 ちうちく 其色 黒 ちぜんとかたまりとける

解顱

此病ハ小児よりそれを流し、あとがひとひとして、ゝで
るをいふなり、これもたいとく此さきて脾胃の気
よりておこる病なり、ゝそなれば下赤いハ肺の不具と心得べし

痟労

このやまひハ小児のむすめ、あれくらの裏となりの
うちとやうくと、腹内あり、腹なせ出てせきあり、
顔の色青くまゝゝハ黄いろなるからだやせ、手足へ脱大きく
なりてひとしいの病 ゝ 我ハ 雀 用 ゝ ゝ り ゝ と 脱 ゝ ぐりやまを
あるき物をぬむ、大抵大人の労痎とかわるゝ甚むつかしき病也
此龍子丸 ゝ 戻色 ゝ 用ハ百人が百人ながら全脱を新

痢病

赤白の下痢ハ、腹気流行よりこ湧るとのべども、
小児の下痢ハ大人とハちがひ、むつかしきなり、
これもたいぐゝ外をさそて下痢後をしく脱きくゝ
やせくゝ弱るを着多くゝ元気
移り 往来し、脱力ぬけぬくゝ
を止る業ハ甚まるし、むりに止ると熱着していよく雑病
此薬を用ひて、邪移りとたいぐゝ
くぐりいをのぞくとまり、法やをしろふとく気をやしし

瘍瘡

やうさうハ天行の邪熱にさそはれ内のたいぐゝ
生ずるなり、移り甚しく、傷寒よりもまつ人なりとへいん
移り乃きつい 往 ハ とんやをつい三日が間を出そろひ三日 ゝ
より山あげ三日が せ三日とくゝ たいがい九日か十日が天法 夫人も病
おかされ ば 九日も三十日もかくるさそて又初り移りの乃附ゝ ゝ 病こ元耳の

しろよ赤きかそき筋出く毒方の耳冷るもの・熱力熱甚この人
男は左・女は右のまゆの中ゆびつ・ひゆるを灸やうとすむ
▲此龍てん丸かうきうよ用ゆ甚よるし若し年よ色やう
て黒くなるよ・又は出うなるとい・ゆ・そ・やく用ゆ・たゆまら五
うる目くぬうゆ・ぎなう

五 腑

肺の孫の腑は孫とうるせる・九ん出る・丸のる黒ひ・黒の
皮ふくる・脾の孫の四人は・赤のいろ黄色ちる・耳・うりちる
出る・へのこゆぶむ・藝去ふ・けと食ふ・肴を好・菜をこのひ・ちのよよ移る・
甘き地とこのむ・心の孫の腑はのどかく・うめく・熱ある・赤のる赤き・色の
下ざる・どうく・ものうこびうひ・去ふて物できる・肝の孫腑は・まゆこ
ちゆめく・黒ちつる・小なん赤げき・にをくむ・たさまよ青筋出る・腎の
孫の腑は・小なんよる・眼上へつ・けー・熱ふ冷ふ・ちるく・疾ふきとる・

物おど病きとる　右氏孫のまうちありとのくも多のく・たいぐ・脾胃へ
へ移り・著して癖の虫と生ず・ぬ龍てん丸用ゆ・ぐ・ぐ・平癒と
右よりて病はとぐくたいぐくよりおるとこ移り・ぐ・ぐ・
ぬ龍てん丸を用ひて治ず・他の丸れは命ずるいぞ！

胎毒よりおこる小児の病をなら「医」記と

むーそひくーくをなる　かんかくつよ移りの孫なる
やせおと強へひさいよ青筋へで・なさまれどちめおつぬる元をけよ
ちくをなまをる　むーそ・せきの出なるにようー
きのとぢういる　たいくりをる　めさぐるくる
疾るくくちらくなる　やんそやよみーのべるる

あたまにかぶるときと如き、ふさまは百人は百人なれども治を
けしぞとかうけとふ　ぜりくたんのあるる
龍の色黄いろなる　稲いりてえぎ出るる　飛ぬけるる
疫なき物也ど強きとる　なのしびくを煎る
目玉をぬりても抱いれぬる色けは　耳より毒る出る
てんかんをまつける　きんだまをたべる　えなせ煎る
もの忘れる　類をてれもものできる　なたま大きいる
人を見ずてなくなるは黄四ようあり　男ひそ初ぶ
こんの下でるる　三日ぬりても　なのしてぬる
類をひへる　寝小ぐんやまぬる　ふと物をまくる
やくさでれの出る　口中ちくぬりてらくのまま寝る

うつむしし　こんとはは即効あり
やうさう俄にいろ黒くなる　やうさう出る　小便ちげきる
ちの上に移るものをとくる　のどかくる　大ぐんにむくる
右の病をなたいどくより起る病るれば此のうがきをよくく
考合く此龍をれと男女一　初めよりてくさどの龍仙箱十七
年ぞ間もくふせし　此龍方うれば物よそ世上にならぶくとり
いろわど　やせ世を病へて　れのかりひ　小児にも病の根をたつゆへ
まだる日数にを年数の　ようにに大きなたつしやにあるが此龍をれ
の徳なり　其上うしきるるれば此御薬成つに男女小児十人の内
八の人まで病うさうのなくなり　あと十人に一人やひとも　おりて
これ此薬の効なるは　まく強きたやしうんたまうぞし

近年和くさ、紛敷業をしらべ別のかきつけ業色まで付ふいと
て、夢ひろめいもの沢山有ようにて家乃世業ハ一ツ相傳ふく
中く他家乃ものゝ如に別してたいせつなる御小兒がこの方上らるる
ものなれば紛敷業とそ御小兒がこの方みるもあしくいろ何事名不よろく
此砂味を下御相伝これ也ぞちしし能書ぶどりゆれ紙ハ無五ぶたぶも
まぎらはしき業法ハ有無五接ハ古紙を必ず上方ゟ上

本家調合所　大阪備後町四丁目　安達吉右衛門（印）

元弘所　京三條通新町西ヶ　澤屋吉三郎
江戸銀座町三丁目　大阪屋八右衛門

元弘店

尾州名古屋町三丁目	泉屋庄八	備前岡山西大寺西	久見屋三郎兵衛
奥州仙臺大町四丁目	伊藤市郎左ヱ門	藝州廣島平田屋町	田葉彩屋七右ヱ門
勢州岩田八日市場町	宇仁田仁兵衛	阿州徳島西新町三丁目	九岡善兵衛
加州金澤南町	萬屋店	肥後熊本新坪井町	本渡屋七兵衛

此外諸国出店取決所有之略之

小兒龍子丸　功能追加

一小兒脹きるとき脹ハ汗をたいどくのふるたるゆいをとる
法ーかくるりのうり此龍子丸ハ一ツ丸ハ一ツほどかりたるハ
法ーとりとりふるゆは走ー癍ふようてをとりのおもをるゆ
おそくハ○唐大黄五分　川芎五分　右二味とるのごとくせんじ
きせんじ業ゆて此龍子丸ハ一ツ丸ハ一ツ法ーれ
○祖ー兒のたいどくハけて母紀ゆ乳母ゆ癍血ある人の乳をのゝてをとん
ふりく出てのつまぞもとう常義い乳どう様ばとても法ーるれ
一急驚風ゆく同と上へ引つけ上へ何程の名医ゆ合ても
ゆとなるものゝよーゆ乳ゆる九死一生の時
○此龍子丸きをふくゆ甘草五分　柴胡五分
右三味と水三合八三分ゆ煎ぜんゆ一つ法用ひ乳ゆ煎ぜんゆ

中ほどのをこゝに書くぬくこゝろ
一年既に此龍子丸を産と雖も水をもつて養へば
右條々は先祖龍仙翁の御
まつく御出をいとひかやしうりうの秘伝書を
百人の男ひとりだに
五こんとむかつく秘伝は
中ほどの御方に此龍
こさまこひつで龍仙翁のとゝへまゐらせ
とゝ者の眞加より八所
文化七年庚午八月護行

此のふ去ハ小兄ようにくの一脇しも去ハれへハ家へくだりか友ハ金
物玉乃事ハて中と行在を不中。何年ハ小兄ハ在れかさへ此事
ハ元ろうなれ不れ。又ハ此の人がきハ此又をとられ。小兄の病ハ何
ぶらのとハ事くるくお去れ上ば。おどろきさうぐこと。
其うへ妻よまく色事ハて。ぶも為紀業をもろめんこて。いろくいつこう
かさりたるのふ去ハ上ハ。数年ためしおれ怪なる事ハなれば。為此
たいくハ門ぶどくとがてんのゆくまでくつまかへしくくしもむべし。たとへ人
此業を不用くも第一子乃為人この。此ハ[illegible]